

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	24221010	研究期間	平成24年度～平成28年度
研究課題名	「国難」となる最悪の被災シナリオと減災対策	研究代表者 (所属・職) (平成29年3月現在)	河田 恵昭 (関西大学・社会安全学部・特別任命教授)

【平成27年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、「国難」としての巨大災害に対する最悪シナリオとその減災対策という、非常に困難ではあるがチャレンジングな課題に対して、様々な角度から独創的に取り組んでいる。研究は、当初の目標に沿って着実に進展しており、期待どおりの成果が見込まれる。また、メディアを介した広報や、研究会の成果をシンポジウムで公表し、それを冊子にまとめて分かりやすく広報するなど、その積極的な普及活動も一定の成果を上げている。研究費の使用にも問題は見当たらない。

ただし、新規かつ先端的な研究内容であるため、現時点での個別の研究成果が、一つの方向性を持った、まとまった成果となるには至っていない。今後、現研究体制の下でその統合が課題となろうが、最終取りまとめに向けての更なる研究相互の有機的な連携と統合化に注力することが望まれる。

【平成29年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部十分ではなかった。
A-	具体的には、検討対象とした11課題について十分な研究成果を上げ、既に多くの研究成果を公表している。
	しかし、当初計画にある、これら11課題の結果を組み合わせた巨大災害の内容の考察、それらに対する最適な減災対策の提案等が不十分で、期待された成果が上がっていない。
	研究成果については、引き続き積極的な発表を期待する。